

令和7年度 第1回吉備中央町有機フッ素化合物に関する連絡協議会 議事概要

日時 令和7年8月28日（木） 18時～19時30分

場所 かもがわ総合福祉センター 集会室

1. 連絡協議会の設置要綱と名称変更について

- ・前回の検討委員会での意見を基に、地元の意見をより反映しやすい場を目指すことから、委員会名を「有機フッ素化合物に関する対策検討委員会」から「連絡協議会」に変更し、内容も改め、委員の承認を得た。

2. 連絡協議会の公開・非公開について

- ・連絡協議会は非公開とすることで合意。議事録の概要を住民に公開する方向で調整。
- ・発言者の個人名は伏せ、要点筆記をホームページや地域紙面で共有する。

3. 第1回吉備中央町有機フッ素化合物対策検討委員会の議事録概要について

- ・事務局により前回の議事概要を説明し、委員から議事内容について承認が得られたので、町ホームページに掲載することが決まった。

4. 住民説明会での意見に対する今後の方針

- ・住民からの意見を基に、地域の安全と安心を優先し、具体的な対策を検討。
- ・参加者からの率直な意見を反映し、専門家への依頼も含めた柔軟な対応を取ることを確認した。
- ・住民説明会の質疑応答部分の公開を検討中。報道機関の前では発言がしにくい住民に対しては後日、個別対応をすることとした。
- ・委員からは、住民説明会の質疑応答の公開により、誤解を招かない情報共有の重要性が指摘された。

5. 血液検査の実施間隔と方法について

- ・血液検査の期間を本人で選べる対応が可能か。
- ・血液検査が3年か5年どちらが良いかが分からない。
- ・血液検査は5年なら5年で良いのでは。
- ・血液検査希望者は2年でも3年でも行ったらよいのではないか。
- ・血液検査は検査を行う人の希望で行ったらよいと思う。
- ・血液の濃度が下がってから不安が解消されるのではないか。
- ・子供の健康診断の機会を増やすため、PFAS以外の血液検査を毎年実施することを検討中。
- ・PFAS 血中濃度検査の頻度については再評価中。

- ・委員から、3年か5年の検査間隔が適切とする意見が出され、住民の健康不安を軽減するために早めの検査が望ましいという声があった。
- ・子供の検査については、負担を軽減するために地元での採血や移動手段の確保を提案された。

7. 住民不安の緩和に向けた取り組み

- ・地域の方の不安解消方法として地域の方に寄り添ってほしい。
- ・住民の健康不安を軽減するため、定期的な健康診断の実施や明るい情報発信が提案された。
- ・委員からは、県や国のより積極的な対応が必要との意見があり、また、PFASによる健康リスクの正確な情報提供と透明性のある対応が求められた。
- ・「日本一安全な水道水」を目指し、地域の安心を高められる取り組みを提案された。

8. その他

- ・住民の中には、あまり騒がず、そっとしておいて欲しいとの意見がある。
- ・風評被害、健康問題等をトータルで考えて情報共有してほしい。
- ・借地への産業廃棄物らしきものが保管されないようにする再発防止策の検討を求められた。

9. 次回の予定

- ・協議会は2ヶ月後を予定。
- ・次回の会合では、具体的な対策の進捗報告と次のステップについて議論予定。